

第 2 回 国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議  
2017 年 3 月 23 日 渋谷 真樹 (奈良教育大学)

## 日本語 DP 導入の意義について

### 研究の背景

専門： 異文化間教育、教育社会学

研究テーマ： 帰国生・外国籍・国際結婚など「多文化な環境で育つ子どもたち」の教育

2012 年～ IB 校の訪問調査

DP を行う一条校 17 校中 13 校を訪問

管理職・教員・生徒への聞き取り、授業や行事の参観

これまでの研究成果

- 「国際バカロレアにみるグローバル化と高大接続—日本の教育へのインパクトに着目して—」『教育学研究』83 卷 4 号 (2016)
- 「一条校による国際バカロレア導入の意図と背景—学校管理職の語りから—」『国際理解教育』21 卷 (2015)
- 「教科外活動におけるグローバル能力の育成—国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの『創造・活動・奉仕』に着目して—」『奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要』23 号 (2014)
- 「日本の中等教育における国際バカロレア導入の利点と課題—特別活動に着目して—」『奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要』22 号 (2013)

これらの研究は、科学研究費助成金 (JS23531124, JS26381130) の成果である。

### 日本語 DP 導入の意義

#### 1) 国際通用性

「国際的」教育資格としての IB： 生徒個人にとって、日本社会にとって

アウトバウンド： 海外の大学への進学

インバウンド： 日本の大学における留学生受け入れ

日本の高校における留学生受け入れ・・・国内における国際的教育環境

#### 2) 中等教育改革・・・<新しい能力> (松下、2010) を育成する一具体案

新しい学力観： 知識・習得・個人作業<分析・発信・協働

新しい教育方法： 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)

### 3) 高大接続・・・明快な評価基準

大学入試における高校での学習成果の多面的な評価 (<新しい能力>を含む)

調査書の記載を具体化する一例として、IB など「国際通用性のある大学入学資格試験における成績」(高大接続システム改革会議最終報告、2016、p. 49)

例：ボランティアなどの社会的活動 (CAS)、探究型学習 (EE)、論述問題 (各教科)

①質保障 ②目標設定から振り返りまでを通した学習成果への結実

DP：明示的な評価基準による絶対的な評価→比較可能性

フル・ディプロマとして、Certificate として

## 日本語 DP 導入における留意点

### 1) グローバル人材育成

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

(グローバル人材育成推進会議「中間まとめ」2011)

どのような「グローバル人材」を目指すのか？ 国益 or グローバル益 or 市場

(朝日新聞、2013/6/16、大野博人)

### 2) 国民教育と国際教育

『教育基本法』

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

#### IBの使命

多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する・・・若者の育成

人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として・・・学び続けるよう働きかけ

IBによる予期せぬ脱国家化 (Resnik, 2012)

### 3) 「西洋」の論理・価値観

日米の小学校で習得される論理構造のちがい (渡辺、2004)

IBの教育に潜む「西洋」的価値 (van Oord, 2007) 例) 批判的思考

#### 4) 国内の二極化

グローバル人材⇔ドメスティック人材？

恵まれた階層の再生産手段としての IB (Resnik, 2008 ; ローダー他、2012)

アメリカの公立高校における IB 生のエリート意識や離脱感 (Ochoa, 2013)

→「ひとつの学校の中のふたつの学校」

グローバルに生きる最富裕層と国内に留まる貧困層のあいだで、社会的連帯感が失われる危険 (ライシュ、1991)

→世界に広がる IB コミュニティへの共感と、国内の同世代との距離感

#### 5) グローバルな競争の本格化

大学の世界ランキング

DP スコアと国内統一試験点との換算表 (花井、2011)

### 提言

#### 1) 日本の教育の強みの自覚と継承

各種学力調査における好成績 (TIMSS、PISA)

特別活動などの全人教育：集団で生きる力

#### 2) IB 的な教育の普及

IB 生を「ごく少数の別枠」にしない工夫：SGH との連携など

多様な価値観の中で、主体的に判断したり、交渉したりする力

#### 3) IB 生に対する、日本社会の形成者としての意識の育成

国内の同世代と学び合う教育環境の整備

学校行事などを通じた連帯感の形成

#### 4) IBO への積極的参画

日本の教育界からの世界への発信

## 引用文献

- 花井渉, 2011, 「イギリスにおける国際バカロレアの認証に関する研究—大学・カレッジ入学機構(UCAS)を事例に」『九州教育学会研究紀要』第39巻, pp. 69-76.
- 松下佳代, 2010, 「<新しい能力>概念と教育—その背景と系譜」松下佳代編著『<新しい能力>は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房, pp.1-42.
- Ochoa, Gilda, L., 2013, *Academic Profiling: Latinos, Asian Americans, and the Achievement Gap*, University of Minnesota Press.
- van Oord, Lodewijk, 2007, “To Westernize the Nations? An Analysis of the International Baccalaureate’s Philosophy of Education”, *Cambridge Journal of Education*, Vol. 37. No. 3, pp. 375-390.
- ライシュ, ロバート, B., 1991, 『ザ・ワーク・オブ・ネーションズ—21世紀資本主義のイメージ』ダイヤモンド社。
- Resnik, Julia, 2008, “The Construction of the Global Workers through International Education”, *The Production of Educational Knowledge in the Global Era*, Sense Publishers, pp. 147-167.
- Resnik, Julia, 2009, “Multicultural Education: Good for Business but Not for the State?: The IB Curriculum and Global Capitalism”, *British Journal of Educational Studies*, 57(3), pp.217-244.
- Resnik, Julia, 2012, “Denationalization of Education and the Expansion of the International Baccalaureate”, *Comparative Education Review*, 56(2), pp. 248-269.
- 渡辺雅子, 2004, 『納得の構造—日米初等教育に見る思考表現のスタイル』東洋館出版。